

平和学習



富士見高原中学校
2年2組
小林なつみ

「平和」とは辞典で「戦争がなくおだやかにおさまっていること」「心配ごとと不安がないこと」です。世界中を見ても決して平和ではありません。今この時も59年前と同じように多くの人が亡くなっています。

日本は広島・長崎と原爆を投下された後、長崎投下後5日後に降伏しました。その後日本は「世界一平和な国づくり」をしてきました。ですが現在は平和から遠ざかりました。戦争がまた起こるといふ不安、低年齢の殺人、温暖化など不安であふれています。

平和は核兵器のないことも平和へつながります。ですが家庭の平和、学校の平和、地域の平和、日本の平和、この全てが平和になつてはじめて世界の平和へとつながります。

ひとりが平和について考え、行動することが大切だと思います。

そして、自分、人の命を大切にすることも平和への想いと戦争で亡くなった人への気持ちだと考えます。

広島の平和学習に行つて



富士見高原中学校
2年3組
窪田江里

私は、広島の平和学習に行つて、戦争について学んだことや、思った事がたくさんありました。最初広島に着いたら、被爆体験講話で爆者の話を聞きました。スライドを見ながら爆者の話を聞いていたと当時どれだけ戦争で人々が苦しめられたかが分かりました。

次に行つた平和記念館ではボランティアの人による解説を聞きながら見学をして行きました。被害にあった人達の写真や、再現された物などを見て当時どれだけたくさんの被害があつたかがわかりました。

次に平和公園に行き、有名な「原爆の子の像」を見ました。去年、像の周りに飾られていた千羽鶴が焼かれてしまいました。もう、沢山の千羽鶴が飾られていて、今でも人々は戦争や争い事のない平和な世界を願っているんだなと思います。なので、今回学習

した事をこれから役立てて行きたいと思います。

平和とは何か



学校 学 論
中 教 員
坂本 真一

今夏最高気温が更新され続けた3日間、広島で平和について考えてきました。爆心地から上空を見上げると、そこには灼熱の太陽があり、そのまぶしさと高温にさらされて、私たちは口を開けば「暑い、暑い。」と言つてばかりでした。そうか、この何十倍もの熱線を受けて、爆風と放射線も受けて、「熱い、熱い。」とものが苦しんでいた被爆者がいたのだ。人間ばかりではない、町全体が一瞬にして消滅してしまつたのだ。被爆体験を語ってくださった高橋さんの思いは、その何十分の一も理解することができたのだろうか。

高橋さんに質問されて、生徒は今の時代を平和であると答えていました。当然です。私たちもそうであることだけを願っています。しかし高橋さんは「本当に平和ですか？」と繰り返し質問されました。生徒はそのことの意味がまだよくわからないようでもありました。わかつてほしいとも思いません。

たし、わからなくてもよい状態が永遠に続けばよいな、と思いましたが。本当の平和とは何か、今考えなくてはなりません。

平和について



南 中 学 校
2 年
越 中 隆 一

僕は、広島に行つて平和の大切さについていろいろな事を学んだ。初めて目の前で見た原爆ドームは、少し不気味だった。平和記念館には、たくさん物が展示されていた。焼けてぼろぼろになつた服、飛ばされたガラスのささつた壁、真っ黒こげになつた三輪車など、どれも原爆の恐ろしさを語っていた。

広島は38度と、やばいほど暑かった。でも原爆の落ちた瞬間の広島は3千から4千度。たった一発の原爆で、町は一瞬にして焼けて野原になつてしまつた。そんな物はこの世にあつてはいけないと思う。

今回の研修を通じて、今僕達が考えるべき事を知つた。それは、今後の戦争や核兵器をどうやってなくしていくかという事だ。そして戦争が、どれほど恐ろしくて、人々を悲しめるかが、痛いほど分

かった。

平和体験研修に行つて



南 中 学 校
2 年
名 取 駿

僕は平和体験研修に参加して、改めて戦争の恐ろしさを知りました。被爆体験を話してくれた高橋さんは、被爆した後、耳の形が変形してしまつたり、つめがとれたりなど、体にいくつもの傷を負っていました。平和記念館に展示されていたものも、残酷なものだらけでした。見るのもいやになるほど目をおおいたくなるものがいっぱいでした。

ビデオなどで見た広島は何も無い状態でした。顔が鼻しかわからない子供や、体にガラスがさつた人などいろいろな人がでてきました。すべて爆風によつて起こつた事でした。

今後、こういうことが起こらないためには、核兵器を早く地球上からなくさなければいけないと高橋さんが言っていました。そのとおりだと思いました。平和体験研修を通じて核兵器をなくさなければいけないということを、僕も強く感じました。